

日本文学誌要 73巻 : 目次

(出版者 / Publisher)

法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要 / 日本文学誌要

(巻 / Volume)

73

(開始ページ / Start Page)

2

(終了ページ / End Page)

3

(発行年 / Year)

2006-03

目 次

〈座談会〉文芸コースの十年とこれから……………笠原 淳……………（四）

勝又 浩

中沢 けい

藤村 耕治

〈随 想〉ぼくの精神科医……………司 修……………（一八）

ヨコハマから船に乗って、南洋へ着いた……………川 村 湊……………（二〇）

笠原さんと「海燕」、そして「芥川賞」……………根本 昌夫……………（二二）

たくさんの空……………小秋元 段……………（二四）

「手の記憶」……………西藏盛 史子……………（二六）

笠原先生の印象……………須金 有美……………（二八）

〈論 文〉古泉千樫「灰燼」私註——大正期『アララギ』裏面史（二）……………千野 明日香……………（三〇）

〈花月〉の「春の遊び」——花月の弓と「小弓」をめぐる……………伊海 孝充……………（四四）

能（隅田川）とオペラ（カーリユー・リヴァー）——死の構図について……………式町 眞紀子……………（五三）

埴谷雄高『死霊』論 その構想の検討……………田辺 友祐……………（六五）

『佳人』論——八佳人Vについて……………李 忠奎……………（七六）

太宰治『千代女』論——スボイルされた少女の言説……………櫻田 俊子……………（八九）

日本文学誌要

第73号



カンボジアにおける日本文学の受容		ベン・セタリン		(九九)
『門』と明治日本の植民地主義		伊藤 博		(一一〇)
〈資料紹介〉 日本文学科の古典籍 (四)		山口 恭子		(一二〇)
高村光太郎書簡——田村松魚宛 (二)		園 明美		
田村松魚研究会代表		間宮 厚司		(一二四)
〈法政今昔〉 日本文学科の伝統を改めて思う		香川 良成		(二五一)
〈書 評〉 間宮厚司著『おもしろさうしの言語』		福 寛美		(二五六)
勝又 浩 著「作家たちの往還」		野村 忠男		(二五八)
継承と超克の意志——『小田切秀雄の文学論争』を読む——		小嶋 知善		(二六〇)
鈴木斌著『歴史認識と文芸評論の基軸』		田中 単之		(二六二)
二ノ宮一雄著『長き助走』——「時代」と共にあつた半生の記録		齋藤 秀昭		(二六四)
南雲道雄著『こころのふるさと良寛』		今泉 隆裕		(二六六)
〈紹 介〉 塩谷郁夫著『講演集 文学の社会的役割』		武井 啓充		(二六九)
〈論文題目〉 法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻 修士論文題目一覧				(二七〇)
法政大学文学部日本文学科 卒業論文題目一覧	二〇〇五年度			(二七一)